

Lib.

京都産業大学図書館報

Vol. 40, no. 2 (Oct. 1, 2013)

特集1 講演要旨・インタビュー内容をお届け！
「図書館書評大賞講演会」報告 2-3
「別れが教えてくれること」(講師:村山由佳氏)

特集2 村山由佳氏 講演記念特集
「馬編」 4-5
「コーヒー編」 6-7

図書館でディスカッション？
「図書館を賢く使っていただきます。」 8-9
その2 図書館ホールの使い方

おもしろい！資料との出会いの場
「おすすめ紹介」 10

先輩の図書館活術
「大学院生に聞いてみました」 11

図書館が就活をサポート！
「情報の探し方」 12-13
No.22 就職活動編

新規連載！
「今をキャッチ。」 14
キーワード01:ビッグデータ (寺井 晃)

教員が書いた本を紹介！
「自著を語る」 15
『国際文化関係系研究』(正林 朝香)

「図書館からのお知らせ」 16
「教員文庫寄贈一覧」
「編集後記」

「図書館書評大賞講演会」報告

「別れが教えてくれること」

講師：村山由佳氏

2013年7月3日(水)、講師に村山由佳氏をお迎えして京都産業大学書評大賞講演会が図書館ホールにて開催されました。講演会のテーマは「別れが教えてくれること」。10年前の直木賞受賞後に、夫と突然の離婚。なぜ別れなければならなかったのか、どんな思いで別れたのか。講演は小さな緊張感の中で始まりました。

作家としての決断。

それまでの生活に不満があったわけではなかった。直木賞を受賞し、自然の中での生活は光り輝き、家事や炊事は夫がしてくれて(笑)、二人の生活はむしろ幸せだった。なのに、受賞後は書くものが「なくなって」しまった。自然に癒され過ぎて、書けなくなってしまった。本当に書きたいのは、美しいだけではない、憎しみや妬みも含んだ人間の本当の姿を描く小説だった。すべてが満たされた環境で、夫の反対を受けながらそれを書くのは難しい。でも、今の幸せな生活や優しい夫を捨ててまで小説を書くべきかどうか、悩み抜いた。出した結論は、別れること。この別れによって今までのような優等生の自分をふり捨て、この道を進んでゆくという覚悟ができた。



取材は必ず自分自身で。



まだ学生だった頃、ある事件への関与を疑われて父が逮捕された。証拠不十分で釈放されたが、無実の父が犯罪者のようにメディアに書き立てられ、カメラを向けられたことに衝撃を受けた。そこで学んだのは「多数派が常に正しいとは限らない」ということ。以来、新聞やテレビで報道されていることをまず疑うようになり、どんなに時間がかかっても取材は必ず自分自身で行うようになった。今年出版した『天翔る』も12年の歳月をかけ、実際に馬に乗り、馬の世界を知り、数々の競技に参加してやっと書きあげた。でも、私に馬を教えてくれた方の一人は出版を待たずして亡くなってしまった。先ほどの離婚もそうだが、人生において大きなことを教えてくれる人は常に別れた人。人は何かを失った時にこそ、大切なことを学ぶ。

母との別れ。

小さい頃から母は異様に厳しかった。私がそんな母から逃れられるのは空想の中だけで、いつも自分だけのお話の世界を作っていた。いま母は年を取り、アルツハイマーになって私が娘であることもわからない。あれほど私を追い詰めた母が…

と思うと、やっと母を少し赦すことができ、感謝する一方で自立し、決別できたような気がする。その母との“別れ”から『放蕩記』が生まれた。

最後に村山氏は、「別れを経験せずに済む人はいない。辛いけれど、失わないと学べないことがあるし、失ってこそ得るものがある」と締めくくり、講演を終えた。



会場は熱気であふれていました

INTERVIEW

講演会終了後、Lib. 編集委員から
インタビューをさせていただきました。



影響を受けた
作家や作品は
ありますか？

『ごんぎつね』『二十日鼠と人間』『レオン』ですね。どれもラストが「なんでそうなる？」というくらい理不尽なんです。

人生は決して思い通りにはいかないということがよくわかる(笑)。
思えば私のデビュー作もそういうテイストです。

図書館はよく
利用されますか？

昔はよく通っていました。小説でも写真集でも、興味の向いたものを気軽に手に取れますよね。10代の頃、岩合光昭さんの写真集に出会ってサバンナに憧れ、それが後に『野生の風』を執筆するきっかけに。表紙に岩合さんの写真を使わせていただけた時は嬉しかったですね。

学生への
メッセージを一言
お願いします。

若さの特権は失敗できることです！たくさん失敗して、挫折して、そのつど這い上がってほしいです。若い時の失敗は、後の人生で必ず生きてきますから。



インタビューの間、村山さんが、言葉を一つ一つ選びながらとても誠実に答えてくれたのが印象的でした。
最後までどうもありがとうございました。
今後の作品も期待しています！



村山由佳氏 講演記念特集

馬 編

7月3日、京都産業大学図書館の書評大賞講演会にて、講師としてお話くださった村山由佳氏の最新作『天翔る』をご紹介します。続いて作品の全編にわたって登場する「馬」についての資料を集めてみました。



『天翔る』 村山由佳著、講談社、2013

(913.6| |MUR 2階)

<Story> 天に向かって走る。ただ一途に、光を求め—

看護師の貴子は休日にシルバーランチという牧場に通っていた。ある日知り合いになった少女まりもを牧場へ連れていく。まりもはある事件を境に学校に行けなくなってしまったのだった。牧場で個性的な主人と出会い、乗馬耐久競技(エンデュランス)という未知の世界を知り、才能を開花させてゆくまりも。そして馬と牧場に関わる様々な人と接するうちに、傷つき居場所を失った一人の少女は祈りと希望と自分自身を取り戻してゆく…。

乗馬のなかでも競技人口が少なく、日本ではまだまだ知られていない「エンデュランス競技」。この乗馬での耐久競技を通して、人と人のそして人と馬との絆を描いています。構想10年以上、著者が実際にエンデュランス競技に参加されたとあって、より深みを増した作品となっています。馬や乗馬に興味がある方にはもちろん、馬を全く知らない方にも読みやすく、なおかつ読みごたえのある物語です。

エンデュランス競技とは…

馬術競技でよく知られている「障害」や「馬場馬術」とは全く違い、エンデュランスは言わば「人馬一緒に走るマラソン競技」です。1日に80~160kmを制限時間内で走り、そのタイムを競います。「天翔る」に登場するデビス・カップという競技では160kmを24時間かけて走ります。ただし一気に走ることはなく、約40kmごとに区間を区切って走行します。特徴的なのは走行前、区間ごと、そして最終区間終了後30分以内に、獣医による馬体検査が課せられていることです。馬体検査では、心拍数・体温を計測し、歩様、脱水症状の有無、怪我の有無などの厳しいチェックが行われます。ゆえに走破タイムの基準をクリアしていても、馬の状態が万全でなかった場合には途中で失権となってしまいます。選手は、馬の体調とペースに注意して走らせたり、歩かせたり、時には馬を下りて一緒に歩いたりもします。また競技場ではなく山や森林の中を走り、夜間真っ暗な闇の中で走ることもあるので、その都度冷静な判断を下しながら走行することが求められます。下記の2冊には『エンデュランス競技』について解説されていますので興味がある方は参考に見てみてください。

参考資料:国際馬術連盟エンデュランス規定 第8版、公益社団法人 日本馬術連盟Webサイト(<https://www.equitation-japan.com/>)

『アルティメイト・ブック馬』

エルウィン・ハートリー・エドワーズ著、楠瀬良監訳、緑書房、1995 (645.2| |EDW 3階)

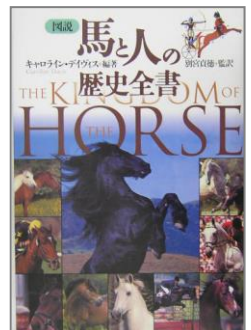
馬の品種、性質の解説や馬を使った競技など、馬に関する事柄の百科事典です。美しい馬の姿を堪能できます。



『図説馬と人の歴史全書』

キャロライン・デイヴィス編著、別宮貞徳監訳、東洋書林、2005 (645.2| |DAV 3階)

馬をこよなく愛するさまざまな分野の専門家が執筆しています。豊富な図版による世界の馬50種の紹介から馬の身体の特徴、人と馬の関わり、エンデュランスやポロなど競技のなかの馬までを網羅する専門書でありながら、初心者でも楽しく学べます。



入門編:もっと馬について知りたい!と思った方へ…

『楽しい乗馬ビジュアルテキスト』

ジョー・バード著,
楠瀬良訳・監修, 緑書房, 2012
(789.6||BIR 2階)

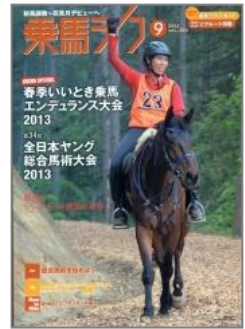
これから乗馬をはじめの方に
おすすめの入門書。基本テ
クニックを写真やイラストで
楽しく分かりやすく解説して
います。



『乗馬ライフ』(雑誌)

オーシャンライフ, 1980~
(788JAA1 2階 雑誌)

写真は2013年9号。エンデ
ュランス競技会の特集が載っ
ています。掲載される写真はど
れも美しく、眺めても楽しい。
乗馬、馬に関する様々な情報
が掲載されています。



マニアック編:もっと深く、馬について知りたい方へ…

『ポルト氏の馬術』

ハリー・ポルト著, 澤田
孝明訳, 恒星社厚生閣, 2003
(789.6||BOL 2階)

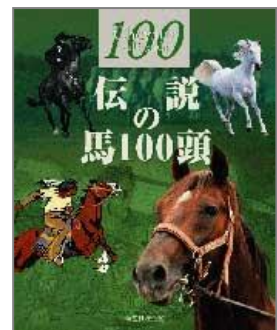
著者自身の騎乗による
連続写真に注目。馬の
動きや肢の運び方など
細かく確認することがで
きます。馬術をされてい
る方におすすめです。



『伝説の馬 100 頭』

ミリアム・バラン著, 吉川晶造
訳, 恒星社厚生閣, 2007
(645.2||BAR 3階)

ワルツを踊る馬、足し算を
する馬、ダ・ビンチの馬な
ど、伝説の馬を美しい大
判写真とともに紹介。物語
を読むように馬の個性を
知ることができます。



美しい馬の映像を見たいと思ったら…こんな映画を見てみませんか？

『緑園の天使』

クラレンス・ブラウン監督, エリザベステイラー主演,
ワーナー・ホームビデオ, 1944 (778.72||BRO 1階)

イギリスの片田舎の娘が、かつ
ては騎手だった浮浪者のマイと
共にパイと名付けた荒馬でイギ
リス最大の障害競馬レース「グ
ランド・ナショナル」に出場して見
事優勝するまでの物語です。



『モンタナの風に抱かれて』

ロバート・レッドフォード監督・主演, パイオ
ニア LDC, 1999 (778.72||RED 1階 LD)

13歳のグレースは乗馬中の事故
で親友と片足を失い、愛馬は事
故のショックで暴れ馬に。母ア
ニーは馬を癒す能力を持つとい
う男の元へ行き深く傷ついた娘と
馬を立ち直らせようとします。美
しい映像が印象的です。

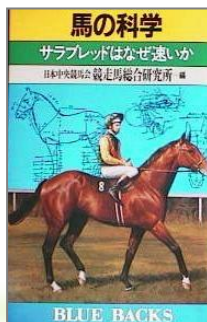


番外編:乗馬以外で活躍する馬もいます - 競走馬、人と共に働く馬…

『馬の科学:サラブレッドはなぜ速いか』

日本中央競馬会競走馬総合研究所
編, 講談社, 1986
(645.2||NIH 3階)

馬は中指一本で立つ? 出っ歯
の馬? 毛色の違いはどこから?
視野は 350 度? 科学的な切り口
から馬について解説されていま
すが、好奇心を刺激する見出し
の数々にページを開かずにはい
られなくなります。



『公僕』

三島正著, メディアファクトリー,
2001(317.3)||MIS 3階)

日本の公務員を撮影した異
色の写真集。この中に京都
府警の「平安騎馬隊」、宮内
庁の「車馬課主馬班」にて働
く馬の姿が写真で紹介され
ています。



村山由佳氏 講演記念特集

コーヒー 編

村山由佳氏の代表作の一つ、『おいしいコーヒーのいれ方』。10年以上に渡って続くこのシリーズに関連し、“コーヒー”が印象的に登場する作品やコーヒーに関する資料をいくつかご紹介いたします。



『おいしいコーヒーのいれ方』シリーズ ; 1-10

; Second season 1-6

村山由佳著, 集英社, 1999-

(913.6||MUR||[1]-1~10)

(913.6||MUR|| 2 -1~ 6)

全て2階文庫コーナー



父の転勤のため、いとこ姉弟(かれん・文)と同居することになった勝利(かつとし)。勝利は次第に5歳年上のかれんに想いをよせるようになり……。

出生の秘密やすれ違い、嫉妬、遠距離など盛り上がる要素がいっぱいの恋愛小説。このシリーズは 10巻目で一区切りの後、Second season へ移行し、今年6月には8巻目にあたる『地図のない旅』が出版されました。

「コーヒーのいれ方」について書かれた作品ではありませんが、主人公・勝利のアルバイト先が喫茶店「風見鶏」だったり、作中何かとコーヒーがかかわってきます。一冊読み終えるごとにきっと“おいしいコーヒー”を飲みたくなる！かもしれません。



おいしいコーヒーをいれたいくなる作品

『海辺のカフカ』 上・下巻 村上春樹著, 新潮社, 2002
(913.6||MUR||1-2 2階)

『かもめ食堂』 荻上直子脚本・監督, パップ, 2006
(778.21||OGI 語学ラボラトリーセンター DVD)

村上春樹作品に音楽が欠かせないことは有名ですが、コーヒーも時折印象的に登場します。『海辺のカフカ』では、主人公「僕」と大島さんがこだわりのコーヒーを入れるシーンがあります。描写が具体的なので、きっと真似したくなるでしょう。

フィンランドが舞台の映画『かもめ食堂』には、おいしいコーヒーを入れるための“おまじない”が出てきます。主人公・サチエが挽きたての豆に人差し指を置いて唱えるのですが、残念ながら原作(群ようこ著)にはこのシーンはないため、気になった方はぜひ映画をご覧ください。

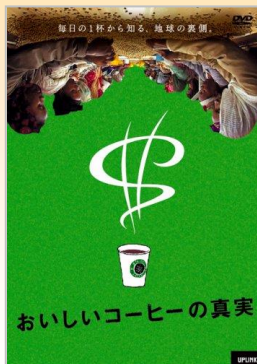


コーヒーと経済

『おいしいコーヒーの経済論』

辻村英之著，太田出版，2012
(617.3||TUZ 3階)

コーヒーの中でも日本で人気銘柄の一つ「キリマンジャロ」。その産地である東アフリカ・タンザニアの現状や世界取引価格など、経済の面から見たコーヒーは「おいしい」のか「苦い」のかを問う一冊です。



『おいしいコーヒーの真実』

マーク・フランシス，ニック・フランシス監督，Uplink，2008
(778.7||FRA 1階 DVD)

私たちがカフェで支払う代金のうち、コーヒー生産者に渡る金額がいくらかご存知ですか？北東アフリカ・エチオピアの産地で、公正な取引を求め奮闘する人々を追ったドキュメンタリー映画。

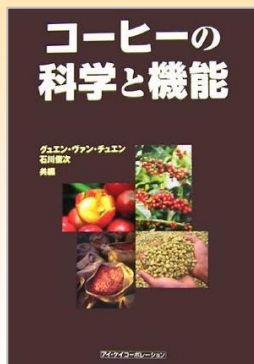


コーヒーの雑学

『コーヒーの科学と機能』

グエン・ヴァン・チュエン，石川俊次共編，アイ・ケイコーポレーション，2006 (498.56||NGU 3階)

コーヒーを飲むと目が覚めたり、頭がスッキリしたり。多彩な栄養機能を有する食品であるコーヒーについて、歴史や成分、生理機能、生活習慣病との関係などに関する研究の成果が集約されています。



『なるほどコーヒー学』

金沢大学コーヒー学研究会編，旭屋出版，2005
(596.7||KAN 3階)

航空機事故解析の工学博士がひよんなことからコーヒーの魅力へとハマっていき、今や全国で唯一、学生に単位を与えるコーヒーの授業を立ち上げるまでに。本書はその講義内容をQ&A方式で分かりやすくまとめられています。



おいしいコーヒーを出す人たち

『喫茶店経営』 フード・ビジネス，柴田書店 MOOK 2009. (673.98||KIS 3階)

『スターバックスを世界一にするために守り続けてきた大切な原則』

ハワード・ビーハー，ジャネット・ゴールドシュタイン著
日本経済新聞出版社，2009 (336.3||BEH 3階)

『すべては一杯のコーヒーから』 松田公太著，新潮社，2005

(673.98||MAT 2階 文庫)

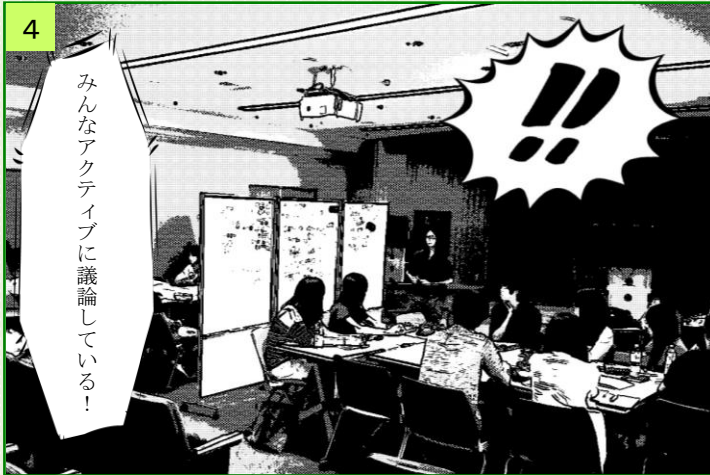
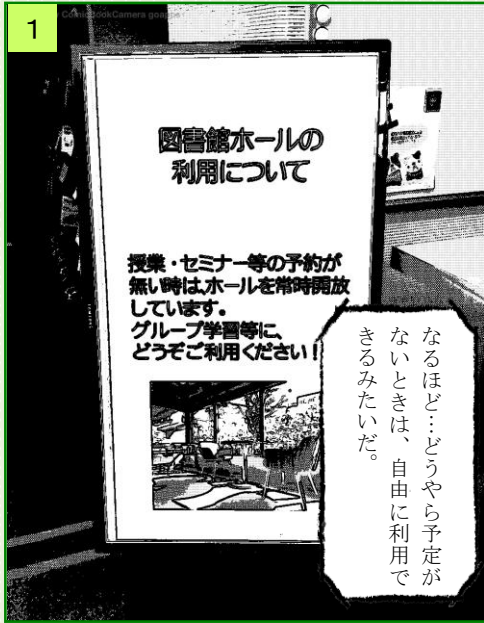
おいしいコーヒーを入れるプロ「バリスタ」。『喫茶店経営』では、その仕事ぶりについて写真と共に詳しく紹介されています。

『スターバックスを世界一にするために……』の著者はスターバックス・インターナショナルの元社長。そして『すべては一杯のコーヒーから』の著者はタリーズコーヒー・ジャパンの創業者でチーフバリスタだった人物。日本全国で多数出店しているシアトル系カフェのスタバとタリーズ。それぞれ視点は違いますが、おいしいコーヒーを出す人たちの裏側を知ることができます。



図書館を賢く使っていただきます。

～その2 図書館ホールの使い方～



図書館ホールで、ディスカッションやグループワークをしてみよう！

2013年3月から、ガイダンス等の行事や授業のないときは、図書館ホールを学修スペースとして学生の皆さんがご自由に利用できるようになりました。

グループでのディスカッションなどに、ご活用ください！

◆利用可能時間：原則として図書館開館時間と同じ

(行事等でホールを使用している際はご利用になれません。週間予定は図書館ホール入口前のデジタルサイネージをご確認ください。)

次のページで図書館ホールの設備を写真付きで紹介します！



Welcome !

図書館ホールを利用する時は、まずは扉の前にある「デジタルサイネージ」で予約状況の確認をしましょう。

予約がない状態で、扉が開いているときは自由に利用することができます。



画像の左下にあるのがデジタルサイネージ

◆中身はこのようになっています！

グループ学習用のメインスペースは

- ・V字型が2組
- ・通常の四角型が2組

となっています。グループでのディスカッションなどにご活用ください。

机や椅子は移動ができるようにキャスターがついていますので、自由に組み替えることができます！

君の想像力が試されている？…かも。



◆あなたのディスカッションをサポートする2アイテム！



モニタさん

パソコンと接続することで、モニタ上に画面を出力することができます。プレゼンの練習にどうぞ！

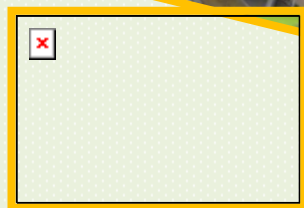
※パソコンの貸出しは行っておりません。ご自身のノートパソコン等をご利用ください！



ホワイトボードさん

ディスカッションの状況など、ボード上に自由に描くことができます。使いこなせば君もディスカッション上級者の仲間入り！？

◆こんなスペースも……



カフェ？！レストラン！？…ではありません。

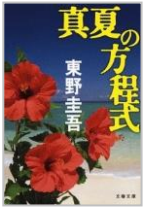
じっくりと腰を落ち着けて、仲間や先輩と協力し合って作業をするのに適したソファ席と大きなテーブル。卓上に電源が付けられているので、タブレットやノートパソコンを持ち込んでの作業もバッチリです！

そして、対話を活性化するのに適したカフェテーブルとカフェチェアは、話しやすいだけでなく、仲間の心の距離も縮まって、議論に深みを与えます。

いつもと違う椅子に座っているだけなのに、何故こんなに作業が、話が進むのか……？

不思議な気分が味わえるかも……

学生にとっても人気のあるスペースなので、座れたあなたは超ラッキーなのかもしれません。



『真夏の方程式』

東野圭吾著，文芸春秋，2013
(913.6||HIG 2階 文庫)

もう皆さんお馴染みのガリレオシリーズ。今夏には映画化され、大ヒットした作品です。何気なく手にとって見た本でしたが、夢中で読み切りました。読んでいる途中に何度も太陽や海、そして好奇心いっばいの一人の少年を思い浮かべてしまいました。最後の最後に謎が解き明かされるシーンでは、それぞれの登場人物が、自分の大切な人を思うがゆえにつき続けてきた嘘のわけに胸がいっばいになりました。誰かを守るためにつかれた嘘は、美しくもやはり切ない。人って深いなど改めて考えさせられた作品です。もう映画は見たよという方もぜひ、一度読んでみてくださいね。

(外国語学部 平岡 由莉)

BOOK



『ハリリー・ポッターと賢者の石』

J. K. ローリング作；松岡佑子訳，
ダン・シュレスインジャー絵，静山社，1999
(933.7||ROW 2階)

ハリリー・ポッターといえば世界的に有名な小説で、全て映画化もされています。ですが、映画は見ても原作となった小説は読んだことがないという人も少なくないのではないのでしょうか。

ハリリー・ポッターは、ハリリーがホグワーツでの様々な出会いと別れを通して、魔法使いそして人間として成長していく物語です。ハリリーが成長していくにつれ、数々の困難に当たりますが、様々な人の力を借りて自分自身で乗り越えていく姿はとても感動します。

この作品は、全7巻のシリーズの最初の作品です。最初ということでも読みやすく物語に引き込まれ、本が苦手な人でも読める作品になっています。

2014年には USJ にアトラクションができます。これをきっかけに原作を読んで、ハリリー・ポッターの不思議な魅力を味わいましょう！

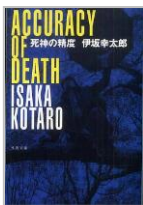
(経営学部 越元 理次)

BOOK



おすすめ紹介

学生の皆さんからお聞きした、おすすめの資料を紹介します！



『死神の精度』

伊坂幸太郎著，文藝春秋，2008
(913.6||ISA 2階)

千葉は死神である。と言っても、直接人を殺すわけではない。人間世界に派遣され、対象の人間を一週間にわたり観察し「可」か「見送り」かを見定める調査員である。

死神は晴天を見たことがない。いつも雨。死神は死なない。だから無敵。死神は慣用句が理解できない。よって、人間との会話は微妙にずれ、ユーモラスで哀しい。また、死神はミュージックをこよなく愛し、渋滞を最も嫌う。

対象者たちを見定めるために真面目に仕事をする千葉と、人間たちを描いた作品。現実にはいない死神がとても身近で親しく感じられる。様々な張られた伏線がラストで見事に収束。これぞ伊坂ワールド。ちなみに、最新刊の『死神の浮力』も千葉の活躍？を描いた長編。あわせてお読みください。

(外国語学研究科 菊地 真理子)

BOOK

原稿募集！

本学図書館にあるおすすめ資料の紹介を募集しています。

- 文字数: 300字程度
- 募集期限: ありません。いつでもどうぞ。
- 応募資格: 京都産業大学学部生・院生
- 提出方法: メールにて必要事項を記入の上お送りください。
件名「Lib.おすすめ紹介コーナー」
氏名・学部・学生証番号
送付先: lib-pub@kyoto-su.ac.jpまでお送りください。
- ※過去にご自身が書かれた文章で、外部で公開がされたもの(Webページ含む)等のご遠慮ください。
- ※他者の作品の剽窃は厳禁です。
- ※掲載の際は、氏名・学部を掲載します。
- ※いただいた個人情報はLib.編集に関する連絡のためにのみ利用し、目的以外に利用いたしません。
- また、記入いただいた個人情報は、個人情報の保護に関する法律に基づいて適切に管理いたします。



大学院生に聞いてみました

皆さんの学修や進路の参考に、大学院生の学部生時代のお話や勉強方法を紹介するコーナーです。

京都産業大学 外国語学研究所
西川 直美さん



大学院に進学した理由を教えてください。また、外国語学研究所を選んだ理由は？

大学3年次生の時、教授の研究のアシスタントをするアルバイトに応募しました。私の主な仕事は幼児の膨大な発話データの中から、誤った言葉の使い方や特徴のある幼児語をリストにまとめ、提出するというものでした。表層的な言語現象から言語の構造を分析することに興味を抱いた私は、その教授のゼミで英語学を専攻し、さらにその知識や分析技術を磨きたいと考え、大学院へ進学しました。卒業後は、大学院で学んだことを日本の英語教育の発展に生かすため、中学または高校の英語の教員になることを目指しています。

**どんな研究をしているのですか？
おすすめの参考書も教えてください。**

私は現在言語学者チョムスキーによって考案された生成文法の理論の中の、統語論と意味論の二つの分野を専攻しています。英語に限らず、世界中の言語全体の普遍的な文法規則や意味構造を明らかにし、また話者の言語獲得のメカニズムを明らかにすることなどが、生成文法の研究において目標とされています。

統語論の入門書としてお薦めするのは、Andrew Radford 著の Transformational Grammar: A First Course(Cambridge University Press: 1988年)です。生成文法がそもそも何を明らかにすることを目的とし、どのような概念を基に成り立つ学問なのかを、易しい英語と豊富な英語のデータを用いて説明されています。章末には設問が設けられ、段階的に生成文法を用いた分析方法を学ぶことができます。

普段どのように図書館を利用していますか？

2階・3階の研究個室をよく利用しています。個室で集中して研究を進めることができますし、欲しい本が図書館にあれば、すぐに探して頂くことができます。

また、探している資料が本学の図書館にないときは、レファレンスカウンターで相談をして他の図書館から資料を取り寄せてもらっています(相互利用サービス)。

私の研究の性質上、海外の博士論文等が必要になることが多く、自力で探し出すことが難しいのですが、海外から文献を取り寄せてもらうこともできますので重宝しています。

最後に、学部生たちにメッセージをお願いします。

私は学部生のころ、大学卒業後すぐ英語の教員になりたいと考えていました。学部生の皆さんの中にも、大学卒業後すぐ就職したいという方が多いと思います。しかし私の場合大学院へ進学したことで、それまで「学ぶ」ことに対して受け身だった姿勢から、目標に向かって自分でやるべきことを決め、自分の力で積極的に学び問題を解決する姿勢を大切にするようになり、その技術も身に付けることができました。これは言語学に限らず、現在のグローバル社会で活躍していくであろう社会人すべてにとって必要な能力なのではないかと思います。そのような力を養う場の一つに大学院はあるのだと私は思います。これを機に大学院へ興味を抱いていただければ幸いです。



就職活動において情報収集はいわば“生命線”。いかに効率よく必要な情報を収集するかでその結果が大きく左右されるといっても過言ではありません。今回は、図書館が持っている資料の一部とその利用方法についてご説明します。

その1 紙媒体資料を使いこなす！

パソコンやタブレット、スマートフォン等のデジタルデバイスも有効ですが、電源やネットワーク環境に左右されない紙媒体にも魅力があります。



1. 新聞【2階新聞・雑誌コーナー】

社会の動き、企業・業界に関連する話題を確認したいときに有効です。どの新聞も、その日何が一番重要かというのは1面を見れば一目瞭然。また、それに関連する記事が近くにあることもあり、情報の幅が広がります。例えば、個々の会社の記事を読んでいるうちに、その業界全体の大きな動きが見えてくることがあります。

面接などでその日の1面記事が話題になることがよくありますので、活動本番に入る前に、どの新聞に、どんなことが書いてあるのか確認しておくとい良いでしょう。



2. 筆記試験対策【3階資格・就職コーナー】

就職試験の第一関門が筆記試験というところは非常に多いです。企業側も「最低限の学力を見るだけ」と言いながら、理不尽にも不合格にすることはよくある話です。極論ですが、どんなに第1志望と考えていても筆記試験ができなければアウトなのです。解き方を覚え、繰り返し学習することでクリアできる確率がぐっと高まります。図書館にも問題集を用意していますので、どんな問題が出るのか早めに対策を始めたほうが良いでしょう。他にも公務員の筆記試験対策本なども多数所蔵しています。



3. 業界研究【3階資格・就職コーナー】

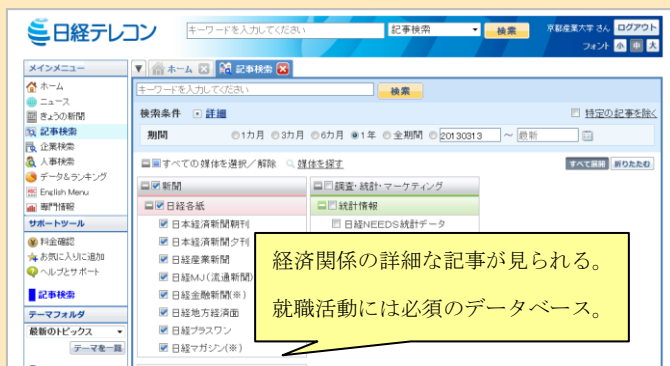
業界の基礎知識が分かれば、情報がよりすんなりと頭に入ってくるばかりでなく、個々の情報がリンクしてきます。自分が勤めたいと思っている会社があれば、まずはその業界の知識（常識）を入れておくことが必須です。短時間で効率よく知識を吸収していきましょう。特に就職活動初期段階では、一つの業界に絞るよりも幅広い業界の知識を入れたほうが業界間の比較ができるメリットがあります。

その2 データベースを使いこなす！

例えば新聞をやみくもにめくっていても、自分がほしいと思っている情報はなかなか得られないこともあるでしょう。そこで今回は、短時間で効率的に情報を集めることのできる情報源として、「日経テレコン 21」と「企業情報データベースサービス eol(イーオーエル)」をご紹介します。いずれも図書館 Web ページ「データベース」から利用することができます。

★日経テレコン21(日本経済新聞社)

このデータベースは、経済関係の新聞記事検索に長けています。企業名をキーワードにして検索をすれば、その企業に関連した新聞記事が一度にヒットします。その日の新聞から1981年まで遡ることができますので、企業のこれまでの取り組みや過去のできごとなどを調べるのに適しています。また、連載記事なども一覧として表示されるので、頭に入れやすいです。ただ、キーワードによってヒットする記事が変わりますので、どうしても検索結果に偏りが出ます。日々の動きについては新聞を読み、特定の記事を探したい時は日経テレコン 21 を使うなど、使い分けが必要です。

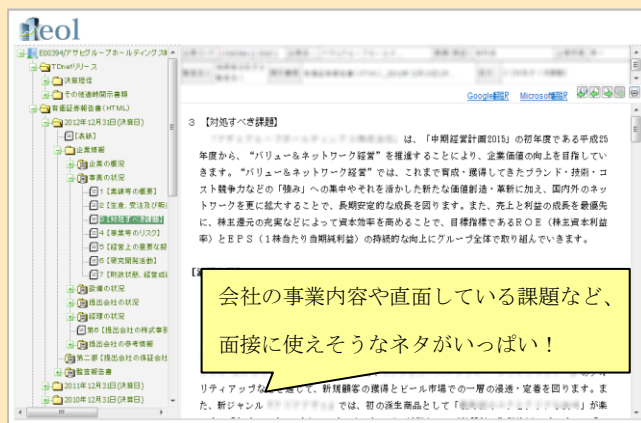


★企業情報データベース eol

このデータベースは、企業情報を収集することに特化しており、有価証券報告書が見られるのが特徴です。決算はもちろん、現在取り組んでいる事業内容の報告や抱えている課題、それについての対策など幅広く情報が公開されています。

就職活動においては、特に面接で効果を発揮します。新聞に目を通すだけなら多くの学生が行い、同じ受け答えになってしまいがちですが、eol で得た知識はきっと面接官の目を引くことになるでしょう。

ただ、データベース全般についていえることですが、知識を得るだけではその価値は半減します。そこから自分は何を考えたのか、どうしたらもっとよくなるのかなど、知識に裏付けされた自分なりの意見を言えるようにするとさらに価値が増すことでしょう。



旬
な
話題を解説!

今をキャッチ。

キーワード 01

ビッグデータ (解説: 寺井 晃)



最近、「ビッグデータ」が注目を集めている。「ビッグデータ」は、スマートフォンや IC カードなどの個人の利用履歴、コンビニ・スーパーマーケットの POS レジデータの蓄積など、従来では考えられないほどの膨大なデータである。私たちの日常生活がそのまま、知らぬ間に分析に活用されることもある。これらは経済動向、商品販売、株式市場予測などの他、犯罪発生予想、渋滞発生予想、病気の予想、選挙予想などにも用いられる。

一方で、衝撃的な数字をセールスポイントとした、胡散臭い商品も世の中にはあふれている。「経済学を学ぶ目的は、経済学者に騙されないためだ」という格言があるように、データに騙されないためにはデータ利用の方法を学ぶ必要がある。その手法は、「統計学」として整備されている。

どのようなところからデータを取ったのか(標本抽出)、どのようにデータをまとめたのか(記述統計)、データから全体を推測する(推測統計)、いずれも欠かすことのできないリテラシーである。データは大きければ良いというだけのものではなく、目的に適い、手法が適切か、常に確認が必要なのである。

予想もされなかったデータの使い方、社会動向の把握の仕方など、学生皆さん自身の視点による創意工夫が独自に行えるようになることを期待したい。

(てらい あきら 経済学部教員)

もっと知りたいあなたに。 ※寺井先生ご推薦!



『マンガでわかる統計学』

高橋信著, オーム社, 2004

(417||TAK 地下1階)

漫画による統計学の入門書。初学者向けにわかりやすくまとまっている。統計学がどういうものか、どうデータを処理し、どうデータ分析の仕方ができるのか、統計学が言えるのはどこまでなのか、辺りの雰囲気は十分につかめる。続編に回帰分析編、因子分析編もあり、こちらもこの本同様にわかりやすい。



『初等統計学』

P. G. ホーエル著, 培風館, 1981

(417||HOE 3階)

昔の本だが、現在でも立派に活用可能な初歩的な統計学の本。統計理論のみならず、豊富な例によるデータ活用の方法に紙面は大きく割かれている。手で計算可能な範囲で例示されているが、コンピュータが発達した現在でも、本書の基礎を応用して計算されているのである。



『ヤバい経済学』

スティーヴン・D・レヴィット他著, 東洋経済新報社, 2007

(331.04||LEV 3階)

データを使って様々な社会の裏側を説明した本。ギャング組織の経済、保育園での罰金の設定、親の子への名付けなど。日本で身近なところでは、相撲の八百長検証は面白い。千秋楽で7勝7敗の力士と8勝6敗の力士の対戦は、同じ取組でも他の日の対戦と比べて統計的に偏っていると言えるか? データ活用で面白い切込みができる。



『統計学が最強の学問である』

西内啓著, ダイヤモンド社, 2013

(350.1||NIS 3階)

統計学の様々な分野での活用を概説した本。統計学の考え方や実例が記されており、データをやみくもに集めればよいものではないことなどへの言及もある。分析方法自体はテキストなどで学ぶ必要があるが、雰囲気や方向性がある程度正しく得るには良い本と思われる。



自著を語る (No.86)

正躰 朝香

「国際文化関係史」は、戦後日本の国際関係論のなかから生み出された新しい研究分野であり、本書『国際文化関係史研究』はその分野の最初の本格的な研究論文集です。24編の論文集からなる本書の1章を執筆したにすぎない私が「自著」として語るのは場違いな気もしますが、本書の学問的重要性は私の気後れよりも遙かに大きなものであると思います。

本書は「国際文化論」の分野において先駆的役割を果たした平野健一郎『国際文化論』（東京大学出版会、2000年）から続けられてきた、「国際文化関係」をめぐる研究の成果といえます。本書の執筆者は、平野の薫陶を受けた日本や東アジアの研究者であり、歴史研究を中心にそれぞれのテーマについて、資料に基づく実証研究を積み重ね、「国際文化関係史」という共通の枠組みのなかで結実させることを目指しています。

グローバル化が進む現代において、国家間関係あるいは国民間関係にとどまらない国際関係への視点、いわゆる「主体の多様化」の視点が重要であることは随分前から指摘されてきました。しかしながら、統一的な視点によって異なる主体を位置付け、多様なレベルに位置する主体間の関係を理解する試みは、これまであまりなされてきませんでした。

国際文化関係論は、国際的な事象に関わるすべての行為主体を文化的な単位と捉えることで、総合的、統一的な視点を得ようとする試みです。国際関係を動かす人々を集団にまとめるのは「文化」であり、文化的な集団が国際関係の行為主体となります。ここでいう「文化」とは、人が「生きるための工夫の体系」(a system of designs for living)であり、そのような文化を基点とする共通の視点から近現代の国際関係を多角的に分析するという方法をとっています。

本書は、「概念の文化触変」「近現代アジアにおける文化触変」「国際関係における文化・文明・民族」「国際文化関係を動かす活動」の4部からなっており、多様なテーマを扱いながらもこのような国際文化間関係史という共通の視点を共有した考察となっています。

私が執筆した第18章「地域統合と文化的多様性-ヨーロッパにおける多様性の『尊重』と『管理』」は、「多様性の中の統合」を謳うEUにおける文化的多様性の扱いについて考察したものです。ヨーロッパにおける文化的多様性を、EUの「加盟国文化の多様性」、加盟国内の「地域的多様性」、比較的新しく流入した「移民の文化的多様性」の3つのカテゴリーにわけ、それぞれにおける多様性についての政策を「尊重」と「管理」に整理しています。またこのような対応の差をもたらす要因を、各集団の領域性の有無に求め、EU統合下での文化的多様性への対応の多様性について分析しています。

独立した専門性の高い論文からなる本書ではありますが、人々の生の営みが作り出す文化的集団を基礎として国際関係を捉えなおすという共通の関心が貫かれており、「国際文化関係史」という新しい学問領域の提示という重要な意味を持っていると思います。

(しょうたい あさか 外国語学部教員)



『国際文化関係史研究』

平野健一郎・古田和子・土田哲夫・川村陶子編（正躰は第18章を執筆）東京大学出版会、2013

(319.02 | HIR 3階)

就活生応援企画

皆さんが図書館を活用し、就職活動を有利に進めることができるようなガイダンスの企画を進めています。

就職活動で必須の企業研究や面接対策に有用な情報の収集方法や、有価証券報告書の活用方法等の内容を盛り込みます。10月下旬の開催予定です。

最新の情報は図書館 Web サイト、POST に掲載いたします。

「音楽の秋」に図書館で Classic を！（企画展示情報）

図書館で「音楽の秋」を満喫してみませんか！10月15日から図書館ではクラシック音楽を中心とした目にする機会の少ない楽譜や関連資料の紹介に加え、図書館ホールではクラシック音楽の放送を行います。また『ニーベルングの指環』で有名なワーグナーの生誕200年を記念した特集も行います。

是非、図書館へお越しください。

- ◆期間：10月15日（火）～12月25日（水）
- ◆場所：1階視聴覚カウンター横・パソコン室内展示スペース、2階メインカウンター前、図書館ホール

「第9回図書館書評大賞」の選考・表彰

図書館書評大賞の選考・表彰に関する日程は、次の通りです。

- ◆入賞発表：11月29日（金）10:00～
※図書館内に掲示、POST、図書館 Web サイトに掲載。
- ◆表彰式：12月18日（水）12:30～
※表彰式は、書評大賞に関心のある方はどなたでもご参加いただけます。選考委員に直接講評などを伺える機会です。どうぞご参加ください。

焦 従勉(法学部)

『日中通商交渉の政治経済学』 京都大学学術出版会, 2009

『比較環境ガバナンス』 ミネルヴァ書房, 2011(共著)

『Local commons and democratic environmental governance』 United Nations University Press, 2013(共著)

岩崎 周一(外国語学部)

『ハプスブルク史研究入門』 昭和堂, 2013(共著)

橋本 武久(経営学部)

『会計と会計学の歴史』 中央経済社, 2012, (体系現代会計学 第8巻)(執筆)

大坂 仁(経済学部)

『東アジアの経済発展、生産性の計量分析』 多賀出版, 2005

正躰 朝香(外国語学部)

『国際文化関係史研究』 東京大学出版会, 2013(執筆)

中井 透(経営学部)

『物語(ストーリー)でわかるベンチャーファイナンス入門』 中央経済社, 2013

釜田 佳孝(法務研究科)

『マンション大規模修繕の業務約款・業務委託書・工事約款及び同解説』 日本リノベーション・マネジメント協会, 2012(共著)

西川 信廣(文化学部)

『東日本大震災と学校』 学事出版, 2013(共著)

▽編集後記△

磯谷 一人でも多くの方に、手に取って読んでほしい。そのような思いで編集をしました。いかがでしたか。図書館の「今」が見えるような、動きのある広報誌を目指しています。アンケートも用意しましたので、皆さんの貴重な意見をぜひ聞かせてください。

鈴木 今回『Lib.』を初めて担当しました。図書館って本が置いてあるだけじゃないんです。上手に利用して、実りある学生生活にしてほしいですし、少しでも本が好きになってくれたらうれしいです。

北村 秋の夜長、読書をする際に今号を参考にしていただければ幸いです。また、図書館内の各種サービスもぜひ活用してください。

中谷 冒頭の講演会に続く特集ページでは「馬」に「コーヒー」と少しマニアックなテーマにスポットを当ててみました。普段は手にしないような本かもしれませんが少しでも興味を持っていただければ幸いです。

松村 講演会に因んだ特集はいかがでしたか？馬もコーヒーも調べてみると奥が深く面白いです。秋の読書にぜひ一冊手に取ってみてください。知識の幅が広がりますよ。